

2013.3 Vol.18

CLF

# REPORT

Center for Learning support and Faculty development report



## CONTENTS

良心館 ラーニング・コモンズについて .....	2
講演会 開催報告 .....	3
各部会活動報告 .....	4
2013年度教育方法・教材開発費採択テーマ .....	5
新着図書情報 .....	5
各学部・研究科FD活動報告 .....	6
2012年度「大学入学準備講座」開催報告 .....	7
FD関連企画のご案内 .....	7
センター事務室からのお知らせ .....	8
コラム 大学教育の今 .....	8



# Learning Commons



2F

クリエイティブ・commons  
学びの交流・啓発空間

リサーチ・commons  
アカデミックスキル育成空間

3F



## 良心館 ラーニング・commonsについて

本学では、2013年4月の教学体制の再編に伴い、学生の主体的な学習活動を支援するため、ラーニング・commonsの運用を開始します。

今出川キャンパスの新棟「良心館」に開設するラーニング・commonsは2フロアに渡り、2階は学びの交流・啓発空間「クリエイティブ・commons」、3階はアカデミックスキル育成空間「リサーチ・commons」と名づけています。

ラーニング・commonsでは、利用しやすいAV機器や自由に組合せられる机、持ち運び可能なホワイトボー

ド等、柔軟性のある機器や道具を配し、グループ学習や協調学習に配慮しています。また、アカデミック・インストラクターや大学院生のラーニング・アシスタント、情報探索アシスタント等の学習支援を行うスタッフを配置し、アクティブな学びの伸展と授業外学習の「質」の向上を目指した各種の企画を実施する予定です。

今後、ニュースレターやホームページ等を通じて最新情報を発信していきますので、是非、新しい学びの場「ラーニング・commons」へお越しください。

### ラーニング・commons 利用ガイド

ラーニング・commonsのコンセプトや各エリアの機能等を紹介する利用ガイドを作成しています。

ラーニング・commonsの詳細については、利用ガイドをご参照ください。



# 開催報告

## 講演会「学びの空間が大学を変える ～空間から活動・共同体へ～」

ラーニング・commons開設に向けたプレオープンイベントとして、学習支援・教育開発センターと国際化推進室の共催で、下記の通り講演会を開催しました。

### 学びの空間が大学を変える ～空間から活動・共同体へ～

#### 日時

2013年3月18日(月)

(講演会)14:00～17:00 (見学会)17:00～17:30

#### 会場

今出川キャンパス 良心館2階 ラーニング・commons内 プレゼンテーションコート

#### 内容

##### ◎学びの空間が大学を変える

**山内 祐平 氏** (東京大学大学院 情報学環 准教授)

##### ◎本学ラーニング・commonsの紹介

**清水 亮 氏** (本学学習支援・教育開発センター 准教授 ※2013年4月着任予定)

##### ◎ディスカッション・質疑応答

**米澤 誠 氏**〈指定討論者〉 (東北大学附属図書館 総務課長)

講演会では、教育工学・学習科学の第一人者である山内祐平氏より、「学びの空間が大学を変える」と題して、学習者の“思考の道具”としての学習空間・学習環境のデザインや、学習空間を生かす支援のあり方、新しい学びの形であるMOOC(Massive Open Online Course)の利用等について、具体例を交えてお話しいただきました。

その後、2013年4月にアカデミック・インストラクターとして着任予定の清水亮氏より、本学ラーニング・commonsのコンセプトや期待される役割等について紹介がありました。

ディスカッションでは、ラーニング・commonsを日本に初めて紹介された米澤誠氏と学習支援・教育開発セン

ターの勝山貴之所長も加わり、学生の主体的な学びを促す空間や支援の方法について、活発な議論が行われました。

また、講演会終了後に企画したラーニング・commons見学会にも多くの方に参加いただき、実際に学びの空間を体感していただきました。

当日は、学内外より100名を超える教職員・学生の参加があり、ラーニング・commonsを含めた学習空間・学習環境や、学生の学びを促す学習支援のあり方について考える良い機会となりました。

学習支援・教育開発センター事務室に当日の配付資料を用意していますので、当日参加できなかった方は適宜閲覧ください。(※本学教職員対象です。)



山内祐平先生の発表



ディスカッションの様子

### FD支援部会 活動報告

今年度の本部会の事業計画には、①学士課程教育の実質化に向けた検討、②教育方法・教材開発費制度の見直し、③英語版FDハンドブックの作成、④「大学入学準備講座」の企画、⑤FDに関する意識高揚活動の実施、⑥FD講演会・ワークショップの開催、⑦学生による授業評価アンケート調査実施方法の見直し、という7項目を挙げました。

このうち①の学士課程教育の実質化に向けた検討については、厳格な成績評価との関連からGPA制度について意見交換を行いました。また文部科学省が推し進めようとしているナンバリング制度についても紹介し、導入に向けた準備を始めました。②の教育方法・教材開発費制度については、2011年度に改訂をしましたが、更に公平性をはかるため、応募者の意見を聞くためのヒアリング制度を設けることにしました。③の英語版FDハンドブックは編集が終わり、外国人教員を主な対象として学内に配布しました。日本語を母語とされない先生方にも、大学のFD活動を理解していただくための一助となればと考えています。④の「大学入学準備講座」の企画は、今年も盛況で多くの高校生が参加してくれました。毎年の活動として定着してきた感があります。⑥のFD講演会・ワークショップの開催については、2012年7月に文部科学省との共催で「大学教育改革地域フォーラム2012 in 同志社大学～グローバル社会における学生の主体的な学びについて考える～」を開催しました。この企画は、大学教育の質の転換をはかるために必要な課題や具体的な取組について、学生、教職員、社会人等の立場から幅広く議論することを目標として全国各地で開催され、京都では本学が開催校となりました。当日は、多くの教職員および学生が参加し、またラーニング・コモンズにおける学生の主体的な学びの可能性等、新しい視点からの報告がなされて、これから大学が進もうとしている道筋が示されたように思われました。他の項目においても、委員の皆さんから貴重なご意見を頂戴し、力を合わせて事業計画を推進できたと考えています。委員の皆様のご協力ご支援に心から感謝致します。

FD支援部会長 勝山 貴之

### 教育効果向上部会 活動報告

今年度の本部会では、①「キャンパスライフに関するアンケート調査」の実施及び調査結果の分析、②「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査結果の利用促進(個別学部を訪問し、調査結果のフィードバック)、③「キャンパスライフに関するアンケート調査」から読み取れる課題の抽出の3点について検討しました。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」の実施及び調査結果の分析については、昨年と同様に、専門調査員を中心に行い、「2011年度『キャンパスライフに関するアンケート調査』調査結果報告書」の作成が完了しました。特に今年は、基礎データのまとめだけでなく、テーマ分析も行っています。分析したテーマは、「大学に対する愛着(愛校心)の規定要因に関する基礎的分析」です。同志社大学の目指している良心教育、キリスト教主義の成果が垣間見られる結果となりました。また、2008年度より一部の学部で実施してきた学生にIDを記入させるパネル調査についても、2011年度から1年次生の全学部で実施することになり、2013年度には、3年次生も全ての学部でID記入による調査を実施することができるようになってきました。このアンケート調査は、学生に回答してもらわなければ成り立ちません。アンケート調査の回答・回収にあたっては改めて学部のご協力をお願いしたいと思います。

上記のアンケート調査の利用促進を行うために、個別学部を訪問し、調査結果のフィードバックを行っています。今年度は、グローバル・コミュニケーション学部、スポーツ健康科学部、神学部、文化情報学部で実施し、各学部の特徴が見られるアンケート調査をとりまとめご紹介しました。これにより、学内での本調査自体の認知度は徐々に高まってきていると感じています。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、PDCAサイクルを繰り返すことにより継続的に教育効果を上げる仕組の一環として行っています。今年度は、このPDCAサイクルを強く意識した検討も行いました。まず、同志社大学および各学部が注力する取組をまとめました。大学が目指す基礎学力の向上、主体的学習の獲得、国際化の推進を中心に、各学部が特色のあるプログラムの作成をプランしていることがまとめられました。この取組が成果を上げているのかについて、アンケート結果を利用して議論しました。

本年度も、委員の先生方には多大なご協力とご尽力をいただき感謝いたします。今後とも引き続きご協力とご検討をお願いします。

教育効果向上部会長 廣安 知之

## 大学院教育検討部会 活動報告

2012年度の大学院教育検討部会では、①TA研修制度の検討、②大学院教育充実のための情報提供と意見交換、③博士課程教育における課題の検討、④博士前期課程における教育上の課題の洗い出しの4点を事業計画として挙げました。

①TA研修制度の検討については、前年度の実績を踏まえ2013年度のTA研修会実施要領を決定しました。2012年度は、新任のTA及び希望者に限定して、日程も履修登録期間中に早めて実施しました。今年度のアンケート結果を踏まえ、2013年度は試行的にTA経験者の体験談の時間を設ける予定です。

②大学院教育充実のための情報提供と意見交換については、文部科学省が6月に発表した「大学改革実行プラン」や、中央教育審議会大学分科会大学院部会の審議動向等の報告を通じて、大学教育改革をめぐる論点について情報提供を行い、各研究科において議論していただく際、材料を提供しました。

③博士課程教育における課題の検討については、博士論文審査ポイントの明示について、各研究科の検討状況を部会委員より聴取し、過半数の研究科での策定完了を確認しました。今後さらに、全研究科での策定に向けて検討を進めるとともに、「履修の手引き」等において明示することの要請を行いました。また、博士論文公表の方式変更についても関連して情報提供を行いました。

④博士前期課程における教育上の課題の洗い出しについては、博士前期課程の学生に対するキャリア形成支援方策や社会人教育への対応が検討課題として提起され、特に、キャリア形成支援について、他大学で実施されている大学院共通科目の取組についての情報提供や各研究科でのキャリア形成支援の事例等の意見交換を行いました。次年度に向けて学生の意識調査や学内関連部署との連携方法等を含め、大学院生へのキャリア形成支援についてさらに取組んでいくこととなりました。ご多用の中、部会運営にご協力いただいた委員の皆様へ感謝申し上げます。

大学院教育検討部会長 武蔵 勝宏

## 2013年度 教育方法・教材開発費 採択テーマ

学習支援・教育開発センターでは、本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を対象とする補助を行う教育方法・教材開発費制度を設置しています。

2013年度は、この制度を利用して1件の取組が行われます

※これまでの採択テーマ及び成果報告書(本学教職員のみ閲覧可)は本センターホームページ上に掲載していますので、以下のURLよりご参照ください。

教育方法・教材開発費制度のページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html>

※教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html>

開発テーマ	所属	申請者
A区分(1件あたり50万円以下)		
大教室での参加型・ワークショップ型授業の基本型の開発	政策学部	中野 民夫 柴田 悠

## 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください。ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>



「学びの質保証戦略」  
山田 礼子  
玉川大学出版部  
2012.5  
ISBN:978-4-472-40454-2



「大学教育をデザインする  
一構成主義に基づいた  
教育実践―」  
久保田 賢一 岸 磨貴子 (編著)  
晃洋書房  
2012.7  
ISBN:978-4-7710-2372-7



「学士力を支える  
学習支援の方法論」  
谷川 裕穂 (代表編者)  
ナカニシヤ出版  
2012.12  
ISBN:978-4-7795-0700-7

※センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。

また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧ください。

## 各学部・研究科 **FD** 活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

### **心理学部** 石川 信一

心理学部のFD活動は基本的に各教員に委ねられているが、主任会を中心として頻繁に意見の集約を行っている。その後、教授会開催日を利用して、全教員が参加しての話し合いがもたれている。ここでは、授業運営、成績評価、カリキュラムについて、継続的な議論がなされている。

本年度は、心理学部となって初めての卒業生を送り出すこともあり、卒業研究についての議論が多く積み重ねられた。その成果として、従来の卒業論文の執

筆・諮問会に加え、ポスター発表会を組み込むこととなった。ここでは、心理学の知見を分かりやすく、端的にプレゼンテーションするスキルが求められた。

当日は、父母や下級生を招いて、4年間学んだ成果が披露されることとなった。ポスターの前では、学会会場さながらの熱気ある議論が展開され、初の試みとなったポスター発表会は成功裏に終わったと言える。今後は、今年度の実施を振り返り、来年度以降の活動に活かしていく予定である。

### **グローバル・コミュニケーション学部** 松木 啓子

2011年度誕生のグローバル・コミュニケーション学部は「世界へ通じる対話力」を有する人材の育成を目指す。約1年間の「Study Abroad」を必修とする英語と中国語、さらに留学生を対象にした日本語の3コースを備えているが、実践的コミュニケーション能力の強化のために、全コースにおいて小クラス編成の演習系科目を実現している。これらのクラスではコーディネーター制が導入され、教材の選択、授業進度の調

整、学生の指導、成績評価について意見や情報の交換が定期的に行われている。科目コーディネーターが担当者間の円滑なコミュニケーションを率先することにより、カリキュラムを有機的に運営している。また、2014年度に全コースの第1期生が取り組む予定のアクティヴ・ラーニング系科目「Seminar Project」に備え、担当者が定期的に勉強会の場を設け、その指導方法や運営方法について研究と議論を行っている。

### **脳科学研究科** 坂場 武史

大学院脳科学研究科は、5年一貫制の博士課程のみを持ち、少人数教育、実験実習など対話型の教育研究活動を軸として、神経科学関連の研究者および専門技術者の養成を行っている。2012年度は研究科開設初年度であり、1年次配当の授業のみ開講している。FD活動については、教務主任を中心としたFD委員会を組織し、成績評価、授業評価アンケートなどの資料を用いながら、定期的に議論を行い、授業の改善を行っている。また、教員数、学生数が少な

い小規模の研究科であるため、各教員が個々の学生から意見を聴取し、それぞれの授業科目の改善に生かすようにしている。神経科学を教育する大学院学部は全国でもほとんどなく、入学した大学院学生の神経科学の知識、思考法を初学者と想定として授業を行う必要がある。初年度の経験に基づき、2013年度についてはいくつかの授業に関して開講時期の変更、教育内容の精選などを図る予定である。

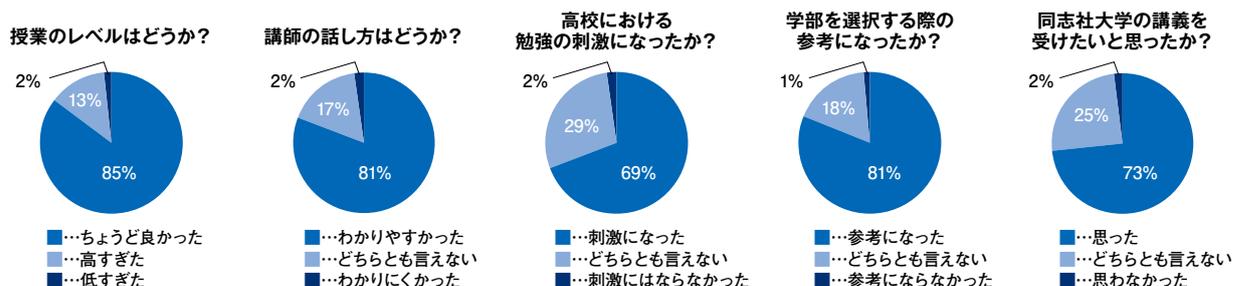
## 2012年度「大学入学準備講座」開催報告

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに大学における必要な学力レベルを教えるための特設授業を提供することで、高校生に正しい学部選択の機会を与えることを目的として、2005年度より「大学入学準備講座」を開講しています。

今年度は、2013年度開設のグローバル地域文化学部を含め全14講座を開講し、37校の高等学校より延べ947名の高校生が大学の授業を体験しました。

志望学部の講義ということもあり、熱心にノートを取る姿も見られ、終了後のアンケートにも、概ね大学での授業を期待する前向きな姿勢がうかがえました。

### アンケート結果



### 受講生Voice

- ・テレビなどで説明されないことを教えようとしてくださったのが、良かったです。
- ・初めて大学の講義スタイルで授業を受け、早く大学生になりたいと強く思いました。
- ・高校の授業とは違って生徒との掛け合いが多くて楽しかったです。これが「授業」ではなく「講義」なんだと思いました。
- ・高校より先生と生徒の距離が近いなと思いました。
- ・しゃべるだけでなく、映像とかを使うと聞く方も興味が出ていいな、と思いました。
- ・大学での授業は、自分で内容を聞いて答えてノートを作っていくかなければならぬことが分かったので、今回体験授業を受けてみて、どのように聞いて考えて書けばよいかということの参考になりました。これからの高校の授業でも参考にしたいです。
- ・まさに自分が学びたいことにジャストミートでした！大学の講義が楽しみになりました。
- ・大学の授業のレベルの高さを知りました。入学までの間、もう少し勉強したいなと思います。



また、講師の先生にご協力いただき、講義内容をまとめた講義録を発行するとともに、臨場感ある講義を体感していただける講義風景の動画を下記URLより公開しています（視聴にはID・パスワードが必要です）。

2013年度も「大学入学準備講座」の開講を予定しています。詳細については、本センターホームページよりご案内します。

大学入学準備講座のページ >>> [http://clf.doshisha.ac.jp/preparation\\_course/course.html](http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html)

### FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメールリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メールリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください（本学専任教職員を対象とします）。

今後、学内外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
5月25日(土)・26日(日)	日本高等教育学会 第16回大会	広島大学 東広島キャンパス
6月1日(土)・2日(日)	大学教育学会 第35回大会	東北大学 川内北キャンパス
6月21日(金)・22日(土)	New Education Expo 2013	大阪マーチャングाइズ・マート
7月22日(月)	大学評価・学位授与機構 平成25年度大学評価フォーラム	一橋講堂
9月12日(木)～9月14日(土)	初年次教育学会 第6回全国大会	金沢工業大学
9月14日(土)・15日(日)	第10回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム	同志社大学 今出川キャンパス
11月30日(土)・12月1日(日)	大学教育学会 課題研究集会	同志社大学 今出川キャンパス

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。 ※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

## センター事務室からのお知らせ

### 新任教員研修会／TA研修会開催のお知らせ

学習支援・教育開発センターでは、2013年度の新任教員向け、およびTA向けの研修会を開催します。

対象者以外でも、本学教職員であれば参加可能ですので、ご希望の場合は学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。また、研修会の内容は、後日ホームページでも公開予定ですので、あわせてご覧ください。

新任教員研修会		TA研修会	
日程	4月2日(火) 13:00～16:25	日程 (予定)	4月4日(木) 18:30～19:15 4月5日(金) 12:25～13:10 4月8日(月) 12:25～13:10
会場	今出川キャンパス:寧静館会議室(5階)	会場	今出川キャンパス:良心館ラーニング・commons 京田辺キャンパス:TC1-232
内容	・ガバナンス、意思決定の仕組み ・国際化の取組 ・学生支援体制 ・教育活動 ・入学試験業務 ・研究活動 ・教育研究倫理	内容	・TA制度、TAの心得 ・TAの事務手続き

※各研修会の詳細については、本センターのホームページをご参照ください。

お知らせのページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/information/information.html>

### 英語版FDハンドブックについて

このたび、英語版の「FDハンドブック」を発行しました。本学におけるFDの基本方針や、シラバス整備、成績評価等について英語で掲載しています。本センターホームページにも掲載していますので、ぜひご活用ください。

同志社大学FDハンドブックのページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/handbook/handbook.html>



### 「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査結果報告書について

学習支援・教育開発センターでは、本学の学生のバックグラウンドや意識等についてのデータを収集、蓄積することによって、1年次生の特徴および学年進行後の変化を客観的に把握することを目的として、「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。

毎年、調査結果の集計と分析を行い、『調査結果報告書』として取り纏めています。本学の教育・学生の特徴を知ることができる冊子となっていますので、ぜひご活用ください。

なお、『調査結果報告書』は学内において、学部等関係者が閲覧することのみを許可しています。調査結果の一部は、本センターホームページにも掲載していますので、ご覧ください。

キャンパスライフに関するアンケート調査のページ >>> <http://clf.doshisha.ac.jp/investigation/investigation.html>



## column 大学教育の今

### 平成24年度グローバル人材育成推進事業(G30プラス)への採択

学習支援・教育開発センター所長 勝山貴之

昨年9月に、文部科学省から「グローバル人材育成推進事業」において、本学がタイプA(全学推進型)に採択されたとの通知がありました。国際センター、全学共通教養教育センター、そして学習支援・教育開発センターが協力して構想したプロジェクトが認められ、国内で選抜された11の大学に本学も名を連ねることができました。内向きと言われる日本の若者たちに海外に目を向けてもらい、グローバル人材に育てもらうため、大学も様々な改革に取り組んでいくことを求められています。語学クラス的能力別クラス編成、TOEFLスコアアップのための集中語学クラスIntensive Courses for TOEFLの開講、サマープログラムをはじめとする留学制度の一層の充実、ラーニング・commonsを活用した学習支援など、学生たちのグローバルな知識・能力を高めるための教育改革は必須です。そればかりか、海外からの留学生に英語で授業をするため、教員側の教育力も上げていく必要があります。またキャンパスに留学生を迎え入れるためには、事務サイドの外国語コミュニケーション能力も向上させていかねばなりません。グローバル人材育成を旗印に掲げる以上、単に学生たちの語学力向上の問題ではなく、大学全体のグローバル化を目指して、果敢に取り組んでいく姿勢が何より重要です。大学は大きな変革の時期を迎えています。

# CLF REPORT

「シエールエフ レポート Vol.18」同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2013年3月29日

Tel : 075-251-3277 Fax : 075-251-3025

発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター

E-mail : ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

京都市上京区 同志社大学 明徳館

<http://clf.doshisha.ac.jp/>